



システムのご紹介

協同組合 山九ハイウェイセンターの組合員でもある山陽システム(山口県周南市)は、長年にわたり業務システム構築に携わっており、導入ユーザー様から高い評価を頂いております。

近年の企業に求められる経営基盤の強化、経営戦略の策定、そのためには最適なシステム構築・導入が必須なものであると考えられます。

当組合の運送会社様をはじめ、システムレベルアップをご検討されておられる各社様へご紹介いたします。



協同組合 山九ハイウェイセンター
Sankyu Highway Center



山陽システムが考えているシステムの意味と役割について

企業の経営トップの最も重要な役割は、5年後10年後の自社が到着すべき理想像(あるべき姿や望む姿)をどのように描き、それに沿った経営戦略や具体的方針をどのように立てていくかと言われています。

具体的には、自社の現状分析を行い、同業他社と比較して自社の強み(秀でている点)や自社の弱み(問題点)は何かを客観的に比較検討し、強みを一層際立たせる戦略をとるのか、弱い点を改善して少しでも強くしていくべきかの選択や意思決定などを行い、それに沿った具体的な対策を立てていかなければならないと言われております。

その為には、強みにしろ、弱みにしろ、それを明らかにする客観的なデータが必要だと私どもは考えています。昨今言われているエビデンスはあるのか、と言う視点です。エビデンスがなければ単なる主観的なもの感覚的なもの、場合によっては間違った経営判断を招来せしめることすらありうると考えております。

繰り返して言うならば、客観的データの補足とその分析を通して、自社の強み弱みを補足し、今後具体的な対策を講じていくためには、社内にある無数の過去のデータの有効活用が必須と考えております。昨今言われていますビッグデータの有効活用です。

企業活動は物づくりにたとえるならば、私どもは「システムは道具」と位置づけしています。従って、いい道具(ツール)でなければなりません。システムは道具、されどシステムだと考えています。

素晴らしい能力のある職人もその道具が粗末でしたら、素晴らしい作品を作ることは出来ないと同様に、企業経営で客観的分析の出来ない分析資料に基づく経営方針・戦略・具体的対策が間違ふ恐れがあると、考えています。

企業は現場システムを発生源とみなし、現場システムデータを活用することで(切り込んで)、どういう問題点があるかを現実的に明確化することが必要と考えます。

- ・ 部門ごとの収支を明確に出し、収支への部門ごとランクづけを補足できるようなシステムにしたい。
- ・ 部門ごとの将来像の中で、現実には営業面・コスト面・収支面など部門ごとに強さ・弱さがあり、どこをどう伸ばしてゆくのかのシステムによって数値化された基礎資料(判断材料)を出すための道具立て作りを目指したい。

そんなご要望にお応えする「システム」構築を、ご協力差し上げます。



エビデンス活用推進
山陽システム株式会社